新しい谷田川小学校の創造（第二年次）
―持続可能な「個に応じた学力向上」と「働き方改革の推進」を体現する―

郡山市立谷田川小学校　教諭　鴫原　沙和子

１　研究の趣旨

予測困難で変化の大きい社会に生きる子どもたちが，自分の未来を切り拓いていく力を身に付けていくことが求められている今，完全実施２年目を迎えた新学習指導要領も社会の変化に対応したものとなっていることから，学校もその在り方や教授システムを再考する時に来ている。

また，郡山市教育委員会では，ＳＤＧｓの理念のもと，「『誰一人取り残さない』教育の推進」を掲げている。ＳＤＧｓのＳ（持続可能な）が表すように，学校教育や本校の研究体制自体が持続可能であることが肝要であり，令和２年度に統廃合した新「谷田川小学校」では，昨年度から以下のように仮説を設定し，主題に迫るための研究を行った。

統合１年目の本校が，コロナ禍中においても次の手立てを講じていけば，教育目標や目指す子ども像の具現化が図られ，「新しい谷田川小学校」が創造できるであろう。

① 子ども一人一人の実態を把握し，算数科を中心に授業改善を行い，協働的な学びと個別最適な学びの一体化を図る。（個に応じた学力向上）

② 旧弊を改め仕事を工夫・改善することにより創出した時間に，子ども一人一人に向き合ったり授業準備をしたりする。（働き方改革の推進）

③ ＩＣＴ機器の効果的な利活用を促進する。

２　研究の概要

〈研究内容〉

(1) 個に応じた学力向上	(2) 働き方改革の推進	(3) ICT 機器の効果的な利活の促進
ア　児童の興味関心を高める導入(課題提示）の工夫 イ　全員が自力解決を行えるような支援や手立て ウ　課題の解決に向けた深い対話の充実 エ　適切に自己評価することができ，次時につながる振り返り オ　家庭学習に対する支援と指導	ア　効率よく作業できるための具体例の提案 イ　時間のかけどころの吟味と活動が充実する取組の創出 ウ　勤務時間内での職員の効率的な時間の使い方の検討 エ　負担平均化の実現に向けた取組	ア　学習支援の手段としての ICT 機器の利活用 イ　校務支援（働き方改革推進）の手段としてのＩＣＴ機器の利活用

３　成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　児童の意識調査では「算数がよくわかる」と答えた児童は７月から１２月の間で増加し，校内授業研究を中心とした学力向上への取組を学校全体で充実させることができた。

○　週案から月案への形式の変更，学級経営誌のデジタル化，職員会議のペーパーレス化など，校務の見直しや精選が図られ，校務のスリム化が実現されつつある。

○　iPad やロイロノート，デジタル教科書などの ICT の利活用がなされたことは，教材研究・準備の短縮や負担軽減だけでなく，学力向上につながる授業内容の充実や児童の理解の深まり，表現力の高まりの一助になった。

(2) 今後の課題

○　校務のスリム化を進めていく中でも，個々の職員の仕事量に大きな偏りがないか検証することや，ＩＣＴ機器の活用に不可欠なセキュリティ面のルールを整備すること等が今後も必要である。

○　児童が，ロイロノートなどのWeb 上で自分の考えをまとめて記録することと，従来どおりに紙のノートに書きこむことでは，使用感や自由度に違いがあり，それぞれの学習場面に応じた学習方法の選択が肝要である。

○「誰一人取り残さなさい」教育の実現のために，児童の認知特性を踏まえた個別の学習支援ができるよう，iPad やデジタル教科書等の様々な学習ツールを有効に用いた授業構想を心がけていく。